
トラック2『主さま、お耳を掃除いたします。お寛ぎくださいね』

【琴葉】

「主さま、わたくしの膝でよろしければ……どうぞ……」

【琴葉】

「少し恥ずかしいですが、主さまになら……だから、遠慮なさらないでくださいね」

【琴葉】

「んんっ……」

【琴葉】

「申し訳ございません……少しだけくすぐったかったので、思わず声が……」

【琴葉】

「あっ、いえ、重くないですよ。大丈夫です」

【琴葉】

「ふふっ、主さまはやっぱり、お優しいのですね。わたくしのことを気にかけてくれるなんて……」

【琴葉】

「どうかお気になさらずに、お寛ぎください」

【琴葉】

「いい風が吹いていますね。風鈴の音色が心地よいです」

【琴葉】

「では、左耳からお掃除しますね。主さまはそのまま……」

【琴葉】

「主さま、お忙しいのはわかりますが、いっぱい汚れていますよ？」

【琴葉】

「耳垢は自然に取れるといいますが、これでは聞こえにくくなってしまいます」

【琴葉】

「ほら……入口のだけでも……コリコリ、カリカリ……コリコリ……たくさんありますよ？」

【琴葉】

「もう少し奥の方まで入れますね？ 痛かったらおっしゃってください」

【琴葉】

「カリカリ……コリコリ……んっしょっ……もう少し奥まで……カリカリ……コリコリ……」

【琴葉】

「気持ちいいですか？ ふふっ、動いちゃダメですよ……」

【琴葉】

「やっぱり耳が弱いんですね。さっきから、びくびくーって震えてますよ？」

【琴葉】

「もう少しですからね～。ガマンしてくださいね♪」

【琴葉】

「ふふっ、こんなにいっぱい取れました。もう大きいのではないと思います」

【琴葉】

「あっ、まだ終わりじゃないですよ？ 実はいいものがあるんです」

【琴葉】

「主さまにもっと満足してもらいたくて、いろいろと探していたんですが……」

【琴葉】

「これ、見てください。耳かきの部分がブラシになってるんです。ふふふっ」

【琴葉】

「これなら主さまのお耳も、しっかりお掃除できます」

【琴葉】

「わたくしも初めて使う耳かきなので、もし合わなければおっしゃってください」

【琴葉】

「——では、始めますね。そお～っと……そお～っと……」

「どうですか？ 気持ちいいですか？ もっと奥までゴシゴシしますね……」

【琴葉】

「ゴシゴシ、ゴシゴシ……カサカサ、カサカサ……ゆっくり上下に動かしますよ～」

【琴葉】

「ふふっ……主さま、顔がとろ～んとしてますよ？」

【琴葉】

「なんだかとっても可愛くて、もっとご奉仕したくなっちゃいます」

【琴葉】

「もっと気持ちよくなってもいいですよ……とろけてくださいね……」

【琴葉】

「もう少しゴシゴシしますね～。ゴシゴシ、ゴシゴシ……カサカサ……カサカサ……」

【琴葉】

「主さま、甘えてる子どもみたいです。いいですよ～、いっぱい甘えてくださいね」

【琴葉】

「ゴシゴシ……カサカサ……ゴシゴシ……カサカサ……うん、綺麗になりました♪」

【琴葉】

「主さま、もう少しそのままお願いしますね。次は梵天でモフモフしますから」

【琴葉】

「梵天……ですか？ 耳かきの後ろについてる、モフモフしている綿毛みたいなアレです」

【琴葉】

「これでもっと細かい耳垢を取っちゃいますね」

【琴葉】

「モフモフでくすぐったいかもしれませんが、ガマンですよ？ 動いちゃダメですからね？」

【琴葉】

「主さま、いいですか～？ モフモフしますよ～」

【琴葉】

「ふふっ……くすぐったいですか？ ガマンしなくてもいいですよ？」

【琴葉】

「もっと奥までモフモフしますね～。モフモフ……モフモフ……」

【琴葉】

「入口もお……モフモフ……モフモフ……主さま、声が漏れてますよ？」

【琴葉】

「遠慮しなくていいですよ？ ほら……いっぱい声を出して……」

【琴葉】

「主さま、左耳は綺麗になりましたよ。ふふっ、わたくしの声もよく聞こえるはずです」

【琴葉】

「あっ、まだ最後の仕上げが……主さま、もう少しそのまま……」

【琴葉】

「ふうふううう〜〜〜〜……ふっ、ふっ……ふうふううう〜〜〜〜……ふうふううう〜〜ふうふう……ふうふううう
〜〜〜〜……ふっ、ふっ……ふうふううう〜〜〜〜……ふうふううう〜〜〜〜……ふっ、ふっ……ふうふううう〜〜〜〜……」

【琴葉】

「これでお終いです……次は右耳ですよ……」

【琴葉】

「はい、そのままゴロンと向きを変えてください。わたくしのお腹に顔を付ける感じで……」

【琴葉】

「んんっ……はあはあ……主さまの吐息が、お腹に当たっています……んっ……!」

【琴葉】

「申し訳ございません、変な声を出してしまって……恥ずかしい……」

【琴葉】

「気を取り直して、右耳のお掃除をいたしますね」

【琴葉】

「ふふっ、主さま、もうすっかりリラックスしていますね。じゃあ……始めちゃいます」

【琴葉】

「カキカキ、カキカキ……コリコリ、コリコリ……主さま、こちらもいっぱいですよ?」

【琴葉】

「主さまは自分に無頓着だから、わたくしはとっても心配です……」

【琴葉】

「でも、今のままでいてくださいね。だって主さまがしっかりしてしまったら……」

【琴葉】

「わたくしがお世話できなくなって、寂しいですから……」

【琴葉】

「主さまは毎日頑張っているのに、何もできない自分が齒がゆいんです」

【琴葉】

「だからせめて目一杯、主さまを癒やしてあげたい。ご奉仕したい……それがわたくしの願いなんですよ？」

【琴葉】

「こうやってお世話をして、いっぱいご奉仕して……毎日願いが叶って幸せなんです」

【琴葉】

「ふふっ、ちょっと恥ずかしいです。お耳の掃除に集中しますね」

【琴葉】

「うん、大きいのは取れました。スツキリです。次はブラシ耳かきですね」

【琴葉】

「じゃあ、お耳の中ゴシゴシしますね」

【琴葉】

「またビクビクしてますよ？ 主さまはブラシ耳かきが、大好きなんですね」

【琴葉】

「ふふっ、奥の方までえ……ゴシゴシ、ゴシゴシ……カサカサ、カサカサ……」

【琴葉】

「ビクビクしてる主さま……可愛いです……ふふっ」

【琴葉】

「ブラシ耳かき、気に入っていただけたようで安心しました」

【琴葉】

「ちょっとクセがあるので心配だったのですが、買って正解です」

【琴葉】

「あっ、でも気に入ったからといって、毎日しちゃダメですよ？ お耳を痛めてしまいますから」

【琴葉】

「それに……主さまを気持ちよくさせるのは、わたくしの役目ですから……」

【琴葉】

「ふふっ、だからもっと気持ちよくしちゃいますね。ゴシゴシ、ゴシゴシ……カサカサ、カサカサ……」

【琴葉】

「最後に奥の方までゴシゴシしますね」

【琴葉】

「もうすっかり綺麗になりましたが、梵天はどうなさいますか？」

【琴葉】

「ふふっ、いいですよ。では、梵天でモフモフしましょうね」

【琴葉】

「モフモフ……モフモフ……主さまは、どの耳かきがお好きですか？」

【琴葉】

「ふふっ、わかりますよー。『どれも甲乙つけがたい』と思っていますよね」

【琴葉】

「どれもちょっと反応が違います。でも全部気持ちよさそうで、とろけていますから」

【琴葉】

「梵天をしているときの主さまは、子猫が甘えているみたいで可愛いです」

【琴葉】

「主さまのもっと甘えた顔……もっと見せてください……」

【琴葉】

「お疲れさまでした。これで両方とも綺麗になりましたよ」

【琴葉】

「あっ、お待ちください。わたくしとしたことが、仕上げを忘れていました」

【琴葉】

「最後に……ふーふーしますね……」

【琴葉】

「ふうふううう〜〜〜〜〜……ふっ、ふっ……ふうふううう〜〜〜〜〜……ふうふううう〜〜〜ふうふう……ふうふううう
〜〜〜〜〜……ふっ、ふっ……ふうふううう〜〜〜〜〜……ふうふううう〜〜〜〜〜……ふっ、ふっ……ふうふううう〜〜〜〜〜……」

【琴葉】

「どうですか？ お耳の通りも良くなったはずです。ほら……」

【琴葉】

「ふふっ、夏の音が涼しげですね。夕涼みにぴったりです」

【琴葉】

「あっ、お茶のお代わりはいかがですか？ 今お淹れしますね」

【琴葉】

「では、お風呂の準備ができましたらお呼び致します。それまではお寛ぎください」